

石徹白川「環境ボランティア」案内

石徹白川でのキャッチ&リリース管理導入は釣り人の提案と協力からスタートした事業です。そもそも漁協にとって釣り人は支払った游漁料に見合った漁獲にこだわるあまり文句ばかり言うてくる苦手な相手であり心を開いて付き合える相手ではない存在でした。そんな釣り人側からの提案に耳を傾けてもらうために、はじめたボランティア協力でしたが、その活動は十数年たった今も途絶えることなく続いています。中でも一番長く続けているのは秋の自然産卵床調査で10月はアマゴ11月はイワナ対象に数回の調査を行なっています。この調査で正確な生息数までは把握できるわけではありませんが継続してきたことでどのくらいの産卵床が確認できれば放流の必要がないのか知ることができるとも重要な調査といえます。また産卵期の魚たちの移動期の前には峠川のエンテイに設置された魚道の整備も大切な事項です。大水で石や砂利が流れ込み埋まって機能してない魚道は他の河川でもよく見かけます。大きな予算を使って作られた魚道なのでちゃんと機能するようにつねに管理されてなければならないはずなのに残念ながら放置されているところが多い現実のなかで石徹白川では釣り人が気になる箇所を見つけると漁協に報告する体制があります。ほかにも石徹白漁業協同組合は本流の第一エンテイで遡上を妨げられる産卵魚の為に大規模な産卵用河川を設置しており。これもまた毎年メンテナンスが必要であり産卵時期前までに必ず行なう重要な作業です。ここでも釣り人が活躍します。このような河川環境のための活動がたくさんありますので、機会があったら自分もやってみたいと思われる方がおられましたら、喜んで受け入れますので申し出てください。登録しておいていただき、こちらから作業日程を事前に連絡しますので当日のご都合がよかったら参加していただくということになります。ただし、これらの活動はすべてがまったくのボランティアであることと組織はあえて作っておりませんのであくまでも釣り人一人というスタンスで参加することを了承したうえで「石徹白フィッシャーズホリデー実行委員」までお申し出ください。

